

令和元年8月

定例教育委員会会議録

十日町市教育委員会

令和元年8月定例教育委員会会議録

1 開催日時、会場

令和元年8月22日（木） 14時00分～15時50分
川西庁舎 4階 第1研修室

2 出席

蔵品泰治教育長、吉楽隆一委員、庭野三省委員、佐藤美佐子委員、浅田公子委員

3 説明のため出席した者

子育て教育部長（樋口幸宏）、文化スポーツ部長（富井敏）、教育総務課長（長谷川芳子）、学校教育課長（山本平生）、指導管理主事（佐藤研一郎）、生涯学習課長（鈴木規幸）、文化財課長（佐野誠市）、スポーツ振興課長補佐（相場俊伸）

4 会議の内容

（1）会議録署名委員の指名

署名委員：浅田委員、庭野委員

（2）報告事項

① 共催・後援等報告

・資料のとおり

（特に質疑等なく了承した）

② 報告第1号 令和元年度NRT学力検査、全国学力・学習状況調査に基づく学力状況について

蔵品教育長

・事務局の説明を求めた。

山本学校教育課長

・資料に基づき説明

庭野委員

・NRT学力検査は、平成28年からずっと下がっているが、どうとらえているか。

山本学校教育課長

・全体では下がってきているが、学年ごとに見ると1・2年生の学習の在り方がここ数年難しくなっており、てこ入れを考えている。

庭野委員

・低学年が全体を下げていけるとなると、授業改善だけでなく躰の面も含めた指導が大事になる。学校と保護者が共有し合って取り組まないと、この傾向が続くだろう。それだけ子育てが難しい状況だと想像はつく。経験から言うと、1年生の担任には指導力のある教員を置かなくてはならないと考える。小学校の場合は、低学年教育の充実が益々大事になると思う。

吉楽委員

- 中学校間の偏差値に10ポイント以上の差があり、NRT学力検査で結果を出す学校とそこまで到達できない学校がある。どうしてこういう差があるのか。例えば、上位に100点取る子が居て、下位に0点の子が居て、中間が居ないというクラス像なのか、あるいは100点取る子が居ないが0点の子も居なくて、みんなが中間で同じような理解度になるクラスなのか、平均50としてもクラスの中身では、競争心が生まれるクラスと諦めムードのクラスなのかかわからない。なかなか結果が伴わない子どもたちの底上げをしないと、全体として今の傾向が続くだろう。どう分析されているのか。

山本学校教育課長

- 平均偏差値が同じ50でもどれくらいの散らばりがあるかということ、目立ったものは無い。中央値、9人居たら5人目を見たときに、上位の学校は全体的に上にくる。学校間の格差がどこで生まれてきたかということ、中学校で学習を牽引するような生徒が、小学校を卒業して津南中等教育学校へ進んで抜けてしまうこともひとつの要因であると思う。

吉楽委員

- 全国学力検査の結果を見て解るのではなく、普段の学習で担任教員がクラスの子どもの理解度などは解るのではないか。

山本学校教育課長

- 経験的に手ごたえは感じていると思う。

吉楽委員

- 子どもたちを底上げするには、できる子を伸ばすのか、できない子を支援するのか。それは難しいものなのか。

山本学校教育課長

- ここ10年20年の学習指導要領の取り扱いでは、必ず全ての子どもをここまで到達させようという考え方があった。もう一步届かない子どもには手厚く指導していた。そのため、一定レベル以上の優秀な子どもが育ち難かったという反省がある。今は、ゆっくり勉強する子どもをもう少し頑張るように、底上げをすることに留まっている印象があり、偏差値の散らばりの度合いが小さくなってきた。100点を取る子どもをもっと増やす、あるいは学校の学習を突き抜けて、専門的なことを学びたい子どもたちを育てるところには、まだ手が届いていない。

吉楽委員

- 中学校の3年間は、色々な学校生活の中で学業成績がクローズアップされて、2020年の学習指導要領の改訂が入ってきたときに、相当数が落伍する印象がある。できない子どもたちの底上げとなると、個別指導に近づいてしまい、全体ではなく個々の苦手教科を指導強化せざるを得ないと思う。次の展開は、上位の学校との10ポイントの差を縮めることが必要だと思う。

山本学校教育課長

- 学校間格差を縮めつつ、全体として上の方に近づくようにすべきだと思う。

庭野委員

- ・難しい問題だが、東京都の和田中学校の取組では、1年生の底上げを図り、次にトップの子を鍛えた。すると、できる子とできない子が別れるのではなく、トップの子を目指してついてくる。スポーツはその典型ではないか。解らない子が居ると教員がそこについて教えるが、それではできる子が伸びない。私の授業では、国語の漢字でトップの子に他の子の指導をさせた。トップの子は有用感を感じて、また意欲を持つようになる。

吉楽委員

- ・寺子屋塾を無くしたが、中学校に入学して夏休みの間に、ついていけない子どもが脱落していくため、ついていけるように寺子屋塾で教える。学校と違い、解らなければそれなりのスピードで学習することになるが、それをやらないともたないと学校長から話があった。できる子どもを伸ばすことは是非やってほしいが、教員ひとりではできない子どもの底上げまでは難しい。教員のサポートは、寺子屋塾と学校との連携プレイをやらないと難しいと思う。

庭野委員

- ・教育格差には、階層、地域、学歴があると言うが、十日町市では市街地にだけ塾があって、周辺部からはなかなか行けない。学校外の教育支援に恵まれていない中で、教育委員会は寺子屋塾をやめたが、中里中や十日町小では協力者により再開した。中心部では実施できるが、周辺部では人材が揃わずに実施できないとなると、差が出てくるだろう。

佐藤委員

- ・学校間のポイント差については、地域による差なのかと気になったが、子どもたちに勉強が定着していないのではと思う。松代では1クラス15人程なので、教員が1人1人の状況を見切れないことはないと思うが、教員の指導力が不足していると、その担任の間は思うように行かないこともある。上手く教えられれば、楽しく学習してどんどん伸びていく。早稲田大学の学習塾は、お盆休みを挟んで夏休み中に前半後半で5日間に3教科を教える。お昼を食べて少し遊ぶこともあるようだ。

浅田委員

- ・できる子が解らない子に教えるというのは、とても良いことだと思う。人に教えるのは、考えなくてはならず、できる子にとっても勉強になる。教員が忙しいのであれば、小学生に中学生や高校生が指導しても良いと思う。南中学校で夏休みに、解らない子には補習、難しいことに挑戦したい子にも勉強会を開いてくれた。学力向上は、学校の教員の対応に因るところが大きいと思う。

庭野委員

- ・市教委の立場としては、学校毎の学力を公表していないと思うが、当市には真面目で前向きな親がいるわけだから、学力の実態を出すべきだと思う。

山本学校教育課長

- ・全国学力調査については、今年形式が変わったので、経年変化をそのままでは比較できない。中学校の英語では、基本技能の聞く、話すがあったが、機器の不具合で参考数値となって比較できない。学力については、どの学級担任もその子が将来目指す進路に進むために、どういう努力が必要か、どういう支援をしていくかを一生

懸命考えていると思う。

庭野委員

- ・小学校では、NRT学力検査で理科と社会が下がった。若い教員の指導力と言うより、教頭や教務主任或いは理科センターの指導力を問われるのではないか。5・6年生の理科や社会で、学力をつけるにはそれなりの手当が必要になる。構わなければ、急降下するのではないかと心配である。

(以上の質疑のあと了承した)

③ 報告第2号 平成30年度十日町市小中特別支援学校における「不登校・いじめ」の状況について

蔵品教育長

- ・事務局の説明を求めた。

山本学校教育課長

- ・資料に基づき説明

吉楽委員

- ・小学校の不登校については、学力とオーバーラップする部分もあると思うが、家庭環境における親子関係がベースにあり、学校が親子関係や家庭内不和に踏み込むのは難しいと思う。情緒が不安定になればいじめの加害者、被害者になるかも知れない。大人の家内問題が、子どもの心身に関わっているのは非常に不健全であるし、母親や父親、或いは祖父母が、助けてほしいという信号を皆発信していて、それを子どもが一身に受けている。家庭内で起こっていることが、子どもに投影されて学校内に入ってきている。それを中学生になっても引きずっているかも知れない。中学校は、大きな改革が必要な時期に来ており、クラブ活動では、苦手でも強制的に入り、できないというストレスをかけることになる。スポーツにおいては、小学校3年生くらいから社会スポーツで指導を受けている。水泳や陸上などの個人競技であれば個人の資質で良いが、野球やバスケットボールなどの団体競技では経験者の方が有利であり、中学で初めて関わる子どもは、いじめの対象か若しくは1度も試合に出られずに、中学校生活を送ることになる。人数が少なく、初心者の子どもの子どもを入れてやっとチームを組むようなら、大変なストレスと仲間からの色々な行為が想像できる。部活動は、教員に負荷が掛かり、子どもには集団活動の良い面もあるがストレスも掛かる。選択肢が少な過ぎると思うので、社会体育や中には民謡などの色々な活動もあるので、そういう活動をやりたい子どもがいたらそれを認めても良いと思う。中学校にある部活しか認めないという枠を外して、放課後の活動においてそういう選択ができるようになってほしいと思う。家庭の不安定な情緒要因と部活動においていじめが見られ、友人関係にもリンクしている。部活動の種類が多ければ、部活動が変わることで付き合う子どもたちの世界が変わるけれど、小規模だと年中みんな一緒にその中で序列が生まれるような性格を部活動は持っている。

庭野委員

- ・今の話は、校長会などで話題にして良いのではないか。野球の新人戦などを見ると、その子ひとりで負けるような場面があって気の毒になる。中学校では、部活指導と進路指導で生活指導をするという旧態依然とした考え方を変えない。働き方改

革もある中で、本当の意味での部活動の在り方、放課後活動の在り方について、中学校が考えなくてはならないと思う。

蔵品教育長

- ・部活動は、自由化され所属していない子どもも多くいると聞いた。

山本学校教育課長

- ・学校の裁量であるが、部活動に全員入るよう促す学校もある。全員入らないと競技が成立しないという学校もある。中学校の校長は、問題意識を強くもっていると思うが、受け皿に関しては中学校が単独でどうにかできることではなく、スポーツ振興課の考え方にも因る。

吉楽委員

- ・中里中学校の校長会で6月に話があり、部活動を夏休みの間は社会体育が受けて、土日は休みにするように取り組まないと、教員の勤務時間が超過して大変だということであった。できないこともあるが、できないでは一歩も進めないのも、ある程度枠を広げて、色々な人達の協力を得て、サッカーは津南町と一緒にクラブをやっている。バスケットボールもそうなると思われる。学区再編にも関わって、部活動が先取りして何れそうなると思う。人数が足りないからといって、あまりやりたくない子を連れてくるような話は、意味がないと思う。

庭野委員

- ・野球は保護者も好きだから、土日でも練習をしている。連合チームもできていることから、ひとつの学校では団体競技を維持できなくなっている。学校としての考え方を示しても良いのではないか。

吉楽委員

- ・文化的な部活動が、吹奏楽部しかないという学校は気の毒に思う。吹奏楽が悪いわけではないが、他にも文化的な部活動を選択できることで、居場所を作ってあげるようにしないと、いじめが厳しいものになると思う。

佐藤委員

- ・そうとも言えないと思うのは、松代中で野球部が1人になったので辞めると思ったが、教員の働きかけか合同チームが良かったのか最後までやり通して、最後の中越大会の壮行式ではひとりで挨拶をきちんとしていた。色々な学校の中で本人の意思と送り出す教員のやりとりで、悪い方向に行くばかりではないと思う。

浅田委員

- ・選択肢が少ないということは、やりたい部活動がない子には本当に気の毒に思う。南中学校は部活動が強制ではなく、水泳やキックボクシングをやっているという話を聞く。やりたいことをやれる環境では、頑張ることができて自分に自身が持てるようになる。

(以上の質疑のあと了承した)

- ④ 報告第3号 市内中学校教員による不祥事案の報告について
蔵品教育長

- ・事務局の説明を求めた。

山本学校教育課長

- ・資料に基づき説明

佐藤委員

- ・相手の高校生は大丈夫なのか。

蔵品教育長

- ・そういった情報は警察が教えないため、わからない。

吉楽委員

- ・臨時保護者会を開いて説明したというのは、この教員が行ったことと今後の対応について説明したのか。

山本学校教育課長

- ・逮捕されたということは分かるが、その後どうなるのかは分からない。常識的に考えて9月以降教壇に立つことは考え難い。部活動を含めてその教員が持っている教科についてどうするかを県教委と検討中である。

吉楽委員

- ・もうすぐ2学期だが間に合うのか。

山本学校教育課長

- ・間に合うようにしてほしいと訴えてはいるが、本人の処分が決まらないので、身分としては教員として学校にあるため、どういう手を打てるか検討中である。

吉楽委員

- ・教科をうまく稼動しないと大変なことになる。2学期からスタートできるように切り替えをうまくしてほしい。

蔵品教育長

- ・これについては、情報が入り次第報告させていただく。

(以上の質疑のあと了承した)

(3) 議決事項

① 議案第1号 令和元年市議会第3回定例会提出補正予算案の承認について

蔵品教育長

- ・議案第1号を上程し、事務局の説明を求めた。

長谷川教育総務課長

- ・資料に基づき説明

山本学校教育課長

- ・資料に基づき説明

鈴木生涯学習課長

- ・資料に基づき説明

相場スポーツ振興課長補佐

- ・資料に基づき説明

(特に質疑はなく決定した)

② 議案第2号 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会クロアチア共和国選手団十日町市事前キャンプ推進委員会設置要綱の制定について

蔵品教育長

- ・議案第2号を上程し、事務局の説明を求めた。

相場スポーツ振興課長補佐

- ・資料に基づき説明

富井文化スポーツ部長

- ・補足説明

庭野委員

- ・来年のオリンピックにクロアチアの応援ツアーなどは予定されているのか。

富井文化スポーツ部長

- ・観戦チケットの関係で難しいかも知れないが、事前キャンプを行った競技に関わる十日町市の競技団体、例えば柔道などの方々が応援に行けるような仕組みは、最低限叶えられるのではないかと思う。ホストタウン枠というものでチケットの割り当てがあり、応募はするが当選するかは分からない。また、当選してもその時にクロアチアの選手が勝ち残っているか、試合の時間帯が違うなど、実際に応援できるかどうかは難しいと考える。

吉楽委員

- ・クロアチアのパラリンピック選手は事前キャンプに来るのか。

相場スポーツ振興課長補佐

- ・パラ卓球にこちらの設備と受入れの話を伝えてあるが反応がない。

(以上の質疑のあと決定した)

(3) その他

① 「第2次十日町市立小・中学校の学区適正化に関する方針」の説明会の概要

② 次期校務支援システム（シーフォース）導入について

③ 最近の動きについて

- ・各部長、各課長等が資料に基づき説明

④ 9月の主な行事予定について

- ・資料に基づき説明

⑤ 次回の教育委員会の開催日時

- ・ 9月定例会 27日（金）13：30～ 川西庁舎 第1研修室

以上で、15時50分に蔵品教育長が閉会を宣言した。

以上の会議録に誤りがないことを認め、ここに署名する。

会議録署名委員

会議録署名委員

会 議 書 記